

授業科目	保育実習 I A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里、柘植 純一、加藤 雅子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1602

授業概要	<p>① 認可保育所で、10日間の実習を行う。</p> <p>② 既習の保育関連科目での学びを生かして、保育現場での観察・参加実習を行う。</p> <p>③ 毎日の実習に当たっては担当保育士から指導を受け、事前準備する。</p> <p>④ 実習内容は実習日誌に整理し、担当保育士の指導を受け、自己評価を行う。</p> <p>この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>
------	--

到達目標	<p>① 実習生としてふさわしい態度を身につける。</p> <p>② 子どもの保育及び保護者への支援を中心に保育所の役割や機能を具体的かつ総合的に理解する。</p> <p>③ 子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めると同時に、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。</p> <p>④ 毎日の実習内容について記録及び自己評価を行い、その意義について理解する。</p> <p>⑤ 今後の学習に向けて具体的課題を持つ。</p>
------	--

学科のディプロマ・ポリシー	3 協調性: 社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。
---------------	--

授業計画	<p>1.保育実習の心得</p> <p>2.実習園との事前オリエンテーション(個別指導)</p> <p>3.実習内容</p> <p>1)見学・観察・参加実習</p> <p>① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。</p> <p>② 実習園の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。</p> <p>③ 担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う。</p> <p>④ その他必要な見学・観察・参加活動を行い、保育士の業務内容等を知る。</p> <p>2)実習記録</p> <p>実習内容を日誌として記録する。</p> <p>3)専任教員による巡回指導を受ける</p> <p>4.事後指導(実習報告書の作成及び課題の整理、実習報告会への参加)</p>
------	--

成績評価方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%
-----------	---

教科書ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。
---------	--------------------

参考書等	なし。授業内で指示します。
------	---------------

クラスコード	beyddtd
--------	---------

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
--------------------------	--

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>「保育実習指導 I」の内容をふまえてしっかりと事前の準備を行いましょう。終了後は日誌等の記録を見なおしながら報告書を作成し、次の実習に向けての課題を確認しましょう。</p> <p>実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>
-----------------------	---

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	<p>授業の中心は学外での実習となります。大学では、実習の事前準備と実習を終えての事後指導を行います。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>
------------------------	---

授業科目	教育実習 I	配当年次	1～2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	森川 由衣	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1604

授業概要	<p>① 附属幼稚園において毎週、通年観察実習する。 観察視点に沿って観察・記録しその後、観察内容についての疑問点などをカンファランスする。 記録は次週に考察を加え提出する。「子どもとは…」「保育者とは…」「幼稚園とは…」「子どもとの関わり方」などの理解を深め、子ども観、保育観などを考え、築いていく基礎を学ぶ。</p> <p>② 観察の他に指導演習(学外実習事前指導・折り紙指導・わらべ歌など)を行う。</p> <p>③ 附属幼稚園において2日間の参加実習を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>
------	--

到達目標	<p>① 観察視点に沿って観察することで、子ども観、保育観などを考えていく基礎を身につける。</p> <p>② 観察記録から視点に沿った考察をすることによりレポートをまとめる力を育てる。</p> <p>③ 観察からの学びを実習につなげることが出来るようになる。</p> <p>④ 附属幼稚園の参加実習体験から自己の課題を知り、学外実習への意欲が高まるようになる。</p>
------	---

学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>1年生 3 協調性: 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>2年生 2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>2年生 3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>2年生 4 各々の関心に基づき得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>
-----------------------	---

授業計画	<p>1週 ガイダンス：授業内容、目的、計画 附属幼稚園見学</p> <p>2～30週・子どもを中心とした観察</p> <p>「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察しなさい」他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者を中心とした観察</li> <li>「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察しなさい」他</li> <li>・実習生を中心とした観察</li> <li>「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察しなさい」他</li> <li>・環境構成、行事などを中心とした観察</li> <li>「運動会の練習の様子を観察し、その取組みを考察しなさい」他</li> <li>・附属幼稚園において2日間参加実習</li> <li>・折り紙指導、わらべうた演習</li> <li>・1年間の振り返りと実習事前指導</li> </ul> <p>2年次 ・「教育実習Ⅱ」の事前指導と事後指導</p> <p>事前指導：実習の心得と日誌及び指導計画の書き方等</p> <p>事後指導：実習報告会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別講義「伝承遊び」</li> </ul>
------	--

成績評価 方法・基準	レポートの内容と提出状況80%、観察態度と授業参加態度20%
---------------	--------------------------------

教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。
-------------	--------------------

参考書等	宮内克男 編著『レポート・論文のまとめ方と書き方』川島書店
------	-------------------------------

クラスコード	svbk3r5
--------	---------

授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	
------------------------------	--

予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>事前に提示された観察テーマを理解し観察の視点を考えておくこと。</p> <p>実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>
---------------------------	--

受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、指導演習等の日程は附属幼稚園のカリキュラムにより変更することがあります。</li> <li>・授業内容から通常の講義時間帯とは異なることがあります。</li> <li>・レポートの提出は原則として次回までとします。「教育実習Ⅰ」修得の為、附属幼稚園での2日間実習は必ず参加すること。</li> </ul> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>
----------------------------	---

授業科目	教育実習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	松井 亜樹、田中 住幸、森川 由衣	単位数	3	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2606

**授業概要**

① 本学との協力幼稚園(私立)において8月～9月に3週間教育実習する。  
 ② 既習の保育理論・関連科目を生かして、幼稚園現場で実践学習する。  
 ③ 毎日の実習に当たっては指導教諭との相談を密にして、事前準備する。  
 ④ 実習内容は実習日誌に整理し、担当教諭の指導を受け、自己評価していく。  
 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

**到達目標**

① 社会人にふさわしい態度を身につける。  
 ② 目標を持って毎日の実習に臨める。  
 ③ 実習内容を実習日誌に反映して記述できる。  
 ④ 楽しく、元気に実習できる。幼稚園を知る。子どもから幼稚園教諭の在り方を学ぶ態度を身につける。  
 ⑤ 幼稚園の役割・意義・幼稚園教諭の仕事を実感として受け止め、これからの学習に向け、課題意識と具体的課題を持ち、幼稚園教諭としての仕事を理解する。

**学科のディプロマ・ポリシー**

3 社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。

**授業計画**

1. 8月下旬～9月中旬(3週間)協力幼稚園で実習する。
2. 実習園との事前打ち合わせ。(教育課程、保育環境、組織体制の理解)
3. 実習内容
  - 1) 観察・参加実習
    - ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。
    - ② 1日の保育の流れを知り、担当教諭の指導のもと必要な活動を行う。
    - ③ 保育全般についての見学・観察・参加活動を行い、子どもの実態を把握する。
  - 2) 部分実習、指導実習
    - ① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し実習する。
    - ② 担当クラスで実習生としての仕事全般を実習する。
    - ③ その他必要な活動を行う。具体的には各実習園の指導により行う。
  - 3) 実習記録
 

実習内容を日誌として記録する。
  - 4) 専任教員による巡回指導を受ける。
4. 事後指導(課題の整理、実習報告書作成、実習報告会)

**成績評価方法・基準**

実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告・事後レポート25%

**教科書ソフト等**

なし。授業内で適宜、資料を配付します。

**参考書等**

これで安心!保育指導案の書き方—実習生・初任者からベテランまで 開 仁志著 北大路書房

**クラスコード**

us5ojji

**授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無**

この科目は実務の経験を有する教員が実践的指導を行います。

**予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間**

実習に入るまでに『幼稚園教育要領』を熟読しておく。  
 実習前に事前確認する時間を確保してください。

**受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報**

実習園との実習事前打ち合わせ、実習後の実習日誌受取りや園行事などに十分配慮する。  
 事前指導については、「教育実習Ⅰ」と「幼児教育の方法と技術」の中で関連させ進める。  
 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

授業科目	幼稚園実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里	単位数	3	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1604

**授業概要**  
主に札幌市立幼稚園において実習を行い、本科での学びや経験を通して築いた保育観をさらに深めます。実習は8月後半から9月前半までの3週間行い、その内容は実習園に委ねます。事前指導では、札幌市立幼稚園の特色(自由保育的保育形態や障害児の積極的な受け入れなど)について学び、そこでの教師の保育観や子ども観、教育課程や指導計画、環境構成等について実習を通して学び取ることができるよう準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

- 到達目標**
- ① 子どもの自発性を引き出す教師の関わり方について自分の意見を述べるができる。
  - ② チーム保育の在り方について自分の意見を述べるができる。
  - ③ 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本がどのように実践されているか理解し、説明することができる。
  - ④ 自身の課題を発見し、その解決に向けての道筋を立てることができる。

**学科のディプロマ・ポリシー**  
3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。

- 授業計画**
1. 事前指導(札幌市立幼稚園の特色と実習の心得)
  2. 実習園との事前打ち合わせ
  3. 札幌市立幼稚園等での実習(8月後半から9月前半の3週間)
  4. 実習内容
    - 1) 見学・観察・参加実習
      - ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する
      - ② 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する
      - ③ その他担当教諭の指導のもと必要な事項について見学・観察・参加活動をする
    - 2) 部分実習・全日実習
      - ① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う
      - ② 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる
      - ③ その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う
  5. 保育科教員による研究保育日の巡回指導
  6. 事後指導  
実習報告書の作成及び課題の整理、実習報告会への参加

**成績評価方法・基準**  
実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%

**教科書ソフト等**  
なし。必要に応じて資料を配付します。

**参考書等**  
なし。授業内で指示します。

**クラスコード**  
nqrwaf3

**授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無**  
なし

**予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間**  
本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に対する反省を行ってください。  
実習前に事前確認する時間を確保してください

**受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報**  
授業計画の実施に当たっては、幼児教育課程特論との連携で実施します。  
この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

授業科目	保育所実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1601

**授業概要**  
 実習は保育者になるための実践的学習の場である。これまで学んだ保育の理論が実際の子どもの関わりや現場の指導者を通して、より理解が深まるように意欲的な取り組みが求められる。実習目的が達成できるように各自が課題を探り実習に備えた上で、より実践的な保育者としての素養を身に付ける。

この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

- 到達目標**
- ① 保育所や認定こども園の役割を理解できる。
  - ② 実習計画、課題を明確にし、理解・説明できる。
  - ③ 保育者の役割を理解し、自分なりに実践することができる。

**学科のディプロマ・ポリシー**  
 3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。

- 授業計画**
1. 理解
    - ① 保育所・認定こども園の目的と役割の理解
    - ② 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解

---

  2. 今までの実習の評価、反省を踏まえて実習計画を作成

---

  3. 実習にあたって自らの研究課題を決める

---

  4. 保育所での実習(2週間)
    - ①参加実習
    - ②指導実習
    - ③実習記録

---

  5. 事後指導およびフィードバック

**成績評価方法・基準**  
 実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書25%

**教科書ソフト等**  
 なし。事前・事後指導で適宜、資料を配付する。

**参考書等**  
 なし。事前・事後指導で指示する。

**クラスコード**  
 5wz3lz7

**授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無**  
 (Blank)

**予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間**  
 今までの実習を振り返り、自身の課題を整理しておくこと。

**受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報**  
 各自で実習課題を立案し、実習園の保育方針に合わせて検討を行っていく。選択する学生は実習に対する目的意識を持つように準備をすること。  
 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。

授業科目	施設実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	今西 良輔	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1602

**授業概要**  
 本科での保育実習や関連科目で学習した知識と経験を活かし、さらなる実践力を磨くことを目的とします。受講生は各自、実習における課題を事前指導の中で設定し、課題に基づいて実習に取り組みます。そして、実習課題に基づいた実践と結果の関連性を考察し、自分の実践の意味をより深く考えることで、実践力を向上させることを目指します。  
 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。

**到達目標**

- ① 課題を踏まえた実習を通して、自己の実践の意味に関してより深く理解する。
- ② 利用者個々のニーズに応じた援助方法について実践を通してより深く理解する。
- ③ 課題を踏まえた実習を通して、保育者としての自己の課題をより明確化する。

**学科のディプロマ・ポリシー**  
 3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。

**授業計画**

1. 事前指導  
 これまでの実習の振り返り、実習を行う施設の概要についての学習  
 実習課題の設定 実習計画書の作成と検討
2. 事前打ち合わせ
3. 実習内容
  - 1) 見学・観察・参加実習
    - ① 実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る
    - ② 利用者の一日の生活の流れを知り、利用者の活動と職員の援助を観察する。
    - ③ 実習担当職員の指導を受けながら、利用者との活動を共にし、利用者へ援助補助をする。
  - 2) 援助実習
    - ① 担当職員の指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する。
    - ② 各自課題を設定し、援助計画を立てて実習する。
    - ③ その他、必要な活動を行う。
4. 事後指導  
 実習前後の課題の整理と検討、実習報告会

**成績評価方法・基準**  
 実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書25%

**教科書ソフト等**  
 なし。必要に応じて資料を配付します。

**参考書等**  
 なし。授業内で指示します。

**クラスコード**  
 ruxgb3p

**授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無**

**予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間**  
 受講生は、本科での実習の振り返りを通して、さらに学びたい課題を明確にして、事前指導及び実習に臨むようにしてください。  
 実習前に事前確認する時間を確保してください

**受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報**  
 各自で実習課題を立案し、実習施設の形態に合わせて検討を行っていきます。選択する学生は実習に対する目的意識を持つようにしてください。  
 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。